

## 500Teammate!!

ひろしま里山・チーム500(ゴーマルマル)は、広島県の中山間地域に関わりを持ちながら様々な活動を実践している人たちがつながって、地域づくり活動の輪を広げていくための人材プラットフォームです。2020年8月末現在、356名の方が参加し、交流の輪を活かして様々な活動を展開しています。

チーム500へは、広島県の中山間地域に関わる取組を実践し、一定の条件を満たす方はどなたでも登録できます。登録者は、ウェブサイトや交流会でお互いのつながりを深めたり、登録者対象セミナーで活動に役立つスキルを学んだりすることができます。また、活動の情報拡散支援やクラウドファンディング制度の活用支援、オンラインストア「さとやま商店500」への商品掲載などのメリットも。

地域を元気にしたい皆さん、ぜひ共に活動しませんか?お申し込みはHP(右欄下左のQR)から可能です。

※2020年度については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部実施していないものもありますので、詳しくはHP(右欄下右のQR)をご覧ください。

### 【活動の様子】



里山ゼミナール



クラウドファンディングセミナー



さとやま未来円卓会議



さとやま商店500掲載商品例

### 今号掲載の皆さんの活動場所



広島県庁道の駅デリバリー支援プロジェクト

## 「おうちで買エール」 おうちで県内14の道の駅の 自慢の商品を手に入れよう!

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた中山間地域生産者を応援する「おうちで買エール」。チーム500メンバーが携わって生み出した、とっておきの広島の里山のモノ、コトを集めたオンラインストア「さとやま商店500」内に設置された特設サイトで、2020年12月末までの間、県内14の道の駅の自慢の商品を購入できます。ご当地グルメや新鮮野菜など、このサイトならではの魅力的な商品がズラリ。あなたも購入を通じ、ぜひ中山間地域にエールをお寄せください!

オンラインストア  
へはこちらから



表紙撮影:  
反岡和宏さん[大崎上島町]

2015年、首都圏在住時に広島県の事業を通じて大崎上島と出会う。その後も島に通い続けついに移住。現在は、大崎上島町観光協会事務局長を務めながらフォトグラファーとしても活動している。



## 500 times vol.1

発行月:2020年9月  
発行:広島県地域政策局  
中山間地域振興課  
TEL:082-513-2632  
FAX:082-224-1977  
E-mail:chichusankan@pref.hiroshima.lg.jp  
編集:株式会社FRASCO

チーム500登録は  
こちらから!



チーム500詳細は  
こちらから!



# 500 times

[ゴーマルマルタイムズ]

# Reborn・里山

【中山間地域に眠る「空き施設」が地域の手で、生まれ変わる】

## interview

かつての駅を再び人々が集まる場所に  
免田洋子さん [広島市安佐北区安佐町]

受け継いだ家屋から島の魅力を発信!  
村上真奈美さん [尾道市瀬戸田町]

気軽に寄れる、地域の活力を生かす場所づくり  
中嶋直哉さん [東広島市福富町]

誰でも集まれる小さな場ならではの癒しを  
清水美保さん [東広島市福富町]

「たまり場」と「たまれる人」を増やしたい  
明木一悦さん [安芸高田市甲田町]

地域のアートシーンを盛り上げ、町を元気に!  
島田愛子さん [北広島町]

島のソトとナカの人のよりよい関係を作りたい  
松本幸市さん [大崎上島町]

廃校になった小学校で宿泊・農業体験を提供  
石田憲浩さん [世羅町]





かつての駅を再び  
人々が集まる場所に

免田洋子さん  
「駅舎カフェ Romui」代表

廃駅になった旧 JR 安芸飯室駅を活用し、2015 年から手作り雑貨や地元野菜の販売、カフェを運営。駅舎は広島市所有ですが、地元自治会に管理運営が委ねられています。電気やガス、水道もないところから始め、地域の方々の支援やクラウドファンディングの活用により簡易水洗トイレの設置や屋根の改修も実現しました。廃線敷なので広大な敷地があり、どう活用すれば魅力的な場所になるかを考えるのも楽しく、レールパークとしてドッグランや藤棚ができ



るといいなと考えています。おかげさまでメディアに載る機会が増えてお客様も増え、近隣自治体ともつながっています。一層連携を強化し、地域の拠点になるよう頑張っています。



受け継いだ家屋から  
島の魅力を発信！

村上真奈美さん  
民泊「談話室村上」女将・  
「マザーズアイランド生口島」運営

生口島の柑橘農家の実家へ、父の体調不良を機に U ターン。ほどなく親戚から農地と家屋を譲られ大百姓になってしまいました。これが今の暮らしの契機に。というのも、自分の子どもにこの大きな土地家屋を無責任に渡せない。生まれ育った私にもかなりの重荷。ならば価値ある財産に形を変えよう！お人よしの性分が功を奏しレモン酵素の開発に成功。これを島の名物にすべく、家屋をジュースバー兼キッチンにリフォーム。現在ジュースバーは島の若手女



性に活躍の場として譲り「レストラン SHIMASISI」として営業。私は自宅で認可を受け、「談話室村上」という屋号で長年の夢だった民泊を始め、農家との二足のわらじに挑戦中です。



気軽に寄れる、地域の  
活力を生む場所づくり

中嶋直哉さん  
「ぶらっとハウス」運営

2020 年 3 月まで地域おこし協力隊として活動する中で、過疎地域にはチャレンジャーが必要と感じ、そうした人達がぶらっと集まり、つながり、何か生まれる拠点を作りたいと思い始めました。一方で、空き家を地域活性化に役立てたいと考えていた時、地域の人の紹介でこの空き家の所有者と繋がり、気がついたら借りることに。多くの人の協力を得てイベントスペースや貸キッチン、貸店舗などのある施設に改修し、親子で遊びに来たり、お弁当を買いに



来たりと、地域の人に気軽に寄ってもらえる場が完成。今後も地域との関わりを大切に、コワーキングスペースとしての活用なども模索しながらこの場所を育てていきたいです。



誰でも集まれる小さな場  
ならではの癒しを

清水美保さん  
「カイロプラクティック&ビューティ  
サロン 癒☆時空〜いやしたいむ〜」

幼少期から虚弱だった体質が、身体の歪みを徒手で整えるカイロプラクティックで改善し、自分と家族の身体を自ら良くしたいと資格を取得。地元福富町に U ターンしてしばらくは出張施術、イベント出店で活動していましたが、地域おこし協力隊だった中嶋直哉さんからの誘いで、2019 年 12 月よりぶらっとハウス 2 階にサロンを開所。地域の方々とつながりが更に増え、ますます楽しく活動しています。65 歳以上の方々に向けた農業や日常生活をしやすい身



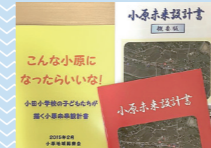
体に整える施術会「井戸端会議 day」等、この場所ならではの企画を行い、来た人同士がパワーをお互に分け合え、身体も整い、よりイキイキできる。そんな場にしていくのが目標です。



「たまり場」と「たまれる人」を増やしたい

明木一悦さん  
「NPO 法人ぶらっとほーむ小原」代表

少子高齢化による人口減の小原地域で、2015 年の「小原地域未来設計書」策定をきっかけに、「たまり場プロジェクト」として、誰もが自由に使える場所を目指し、みんなで古民家を DIY する取組を立ち上げました。現在では、旧小原保育所を地域拠点（新たなたまり場）とした賑わいづくり計画、小屋（町人のたまり場）のまちづくり計画、小原地域内の空き家調査による転入者促進（たまれる人増やし）に取り組んでいます。地域住民主体で行う空き家調査は、国土交



通省「空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」にも採択されました。地域外にたまり場を広げる活動も始めています。時代と共に取組を進化させながら地域を活性化したいです。



島のソトとナカの人の  
よりよい関係を作りたい

松本幸市さん  
「山尻シェアハウス Chikara」  
「ゲストハウス木江宿庭火」運営

大崎上島は瀬戸内ならではの淡い青色の海に囲まれた美しい離島です。生まれ育ったこの島で過疎化が急激に進み、空き家が増える一方、子どもの頃からお世話になった方々が孤独死することがありました。主を失った家を見て、何かできることはと考え、移住希望者が試しに住める中間拠点として「山尻シェアハウス」を 2014 年から運営。40 名以上の移住が実現し、26 軒の空き家が移住先となりました。現在はより短期の滞在者受け入れのため、旧宿町で「ゲ



ストハウス木江宿庭火」も運営。観光から移住へ、島内外の人が緩やかによりよい関係を作れるよう、今後は島の人の暮らしや人生観にふれられる体験プログラムを作りたいです。



地域のアートシーンを  
盛り上げ、町を元気に！

島田愛子さん  
「あーとふる大朝」代表

地域の先輩方が、廃校になった小学校を 20 年程前に「筏津芸術村」として整備され、アトリエやイベント会場として賑わっていましたが、世代交代などでいつの間にか利用されなくなっていました。ここに賑わいを取り戻せたら！と 2019 年にクラウドファンディングで資金を募り、ギャラリーと交流スペースを設置。ここを拠点に、芸術を通して楽しい物語が生まれることを願い、展示会の開催のほか絵画教室・陶芸教室等も行っています。また地域には、昔から



根付いた暮らしの中の芸術があります。その一つ、張り子の再現などにも取り組んでいます。今後はアーティストインレジデンスの場としての利用も広がるよう発信していきたいです。



廃校になった小学校で  
宿泊・農業体験を提供

石田憲浩さん  
「世羅の宿ひがし」施設長

世羅町東地区は、観光農園も多数立地する自然豊かな地域です。2009 年、町の人口減少に伴い小学校の統廃合が決まり、地区にあった東小学校もなくなることになりました。みんなが集まる場所が減っては大変と地区民が話し合い、この小学校を自治センター・避難施設・宿泊施設に改築することを町に要望。これが採択され、2014 年宿泊施設「世羅の宿ひがし」がオープンしました。現在は、東自治会が指定管理者となって運営しています。宿泊・食事提供のほか、農業体験も実施し、町内外多



数の人々にぎわっています。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体験イベントは現在開催未定ですが、懐かしい小学校の雰囲気味わえる居心地のよい宿で皆さまをお待ちしています。

